

「考え、議論する道徳」の実現に向けた授業構想〈小・道徳〉

特別研修員 道徳 三戸 真紀（小学校教諭）

主題名 相手のための親切
内容項目 B-(7)親切、思いやり
教材名 『やさしいユウちゃん』

主題名 相手の立場も大切に
内容項目 B-(11)相互理解、寛容
教材名 『すれちがい』

授業改善の視点

多様な感じ方や考え方を共有するために、児童の考えを書かせて可視化する。また、道徳的価値の理解を深められるようにするために、出された考えを全体で比較・検討しながら話し合いを進める。

授業改善の視点

児童一人一人が、身近な問題を主体的に対処することができるようにするために、問題解決的な学習を取り入れる。また、登場人物の行動や心情を理解しやすくするために、板書を工夫する。

過程

主な学習活動（○発問 ◎中心発問）

導入

1. 本時で扱う道徳的価値を想起し、問題意識をもつ。

○親切とはどういうことですか。また、親切にされると、どのような気持ちになりますか。

道徳的諸価値についての理解を深めるために

- ・「よくない親切があるのか」ということに触れる。
- ・一人一人の生活に根差した問題を取り上げ、自分ごととして考えられるようにする。

親切とは何だろう。

1. 本時で扱う道徳的価値を想起し、問題意識をもつ。

○自分の考えを分かってもらえなかった時、みなさんは、どのようなことを思ったり感じたりしましたか。

道徳的諸価値についての理解を深めるために

- ・「自分の考えを分かってもらえなかった時、どんな気持ちになりましたか」という事前アンケートの結果をまとめておき、掲示する。

他の人と分かり合うために大切なことは何だろう。

展開

2. 中心的な教材によって、本時で扱う道徳的価値の追求を行う。

- ユウちゃんといっしょになれてよかったと言われたユウコは、どのような気持ちだったでしょう。
- ◎本当に、それでいいのかなと、しばらく考え込んだとき、ユウコは、どのようなことを考えていたでしょう。



<グループでの話し合い>

- ①個人の考えをワークシートに書く。
- ②グループで話し合う。
- ③友達の意見を聞いて別の視点に気付いたり、考えをつけ足したりして、児童に考えを書かせる。
- ④全体で話し合う。



<出された考えを比較・検討する場面>

○相手のためになる親切とは、何だと思えますか。

物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深めるために

- ・多様な感じ方や考え方を共有させ、道徳的価値に対する自己の考えを深められるようにする。
 (例) グループの話し合い、全体での比較・検討する場

2. 道徳的な問題を探究する。



<時間に沿って行動を整理した板書>

- よし子とえり子のすれ違いが生まれたのは、どのようなことが原因でしょう。
- ◎二人にどのような心があれば、すれ違ったり、けんかになったりしなくてすんだのでしょうか。



<机配置を生かした話し合い>

○他の人と分かり合うために大切なことは、何だと思えますか。

物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深めるために

- ・道徳的価値に深く関わる児童の発言に対して、教師から問い返しを行う。
- ・一人の児童の発言に対して、他の児童から共感、質問、意見などを求め、道徳的価値の理解を深められるようにする。

終末

3. 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。

○親切について、今までの自分はというふうにかえていたかを振り返り、これからどのような気持ちが大切かを考えましょう。

自己の生き方についての考えを深めるために

- ・振り返った経験の具体的な場面や、今までの考えが変わった理由を書かせ、これからの生き方に生かせるようにする。

3. 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。

○今までの経験を振り返り、他の人と分かり合うために大切なことができていたかを考えましょう。

自己の生き方についての考えを深めるために

- ・導入時のアンケート結果を活用して、これまでの自己を振り返らせ、よりよい生き方について考えられるようにする。

道徳科 学習指導案

平成30年6月 第5学年 指導者 三戸 真紀

1 主題名 相手のための親切 内容項目B-(7)親切、思いやり

2 教材名 「やさしいユウちゃん」 (出典：日本文教出版)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

思いやりとは、相手の気持ちや立場を自分のことに置き換えて推し量り、相手に対してよかれと思う気持ちを向けることである。望ましい人間関係を構築するためには、自分の思いや主張ばかりを通すのではなく、相手に思いやりの心をもって接することが不可欠である。しかし、親切や思いやりは、積極的に励ましや援助をすることだけではない。時には相手のことを考えて温かく見守ることも、親切な行為の表れである。「相手の立場に立った親切とはどういうものか」「本当に相手のためになる行為なのか」という視点を持ち、親切な行為を実践していこうとするための判断力を育てたい。

(2) 児童の実態について

本学級の児童は、困っている人や身近な友達に、自分から進んで親切にすることができる児童が多い。また、高学年になってから約三ヶ月が経ち、学校全体や下学年の児童のために様々な仕事や援助をしていこうという意欲が高まっている。人のためになることをするのはとても気持ちのよいものだが、それが独りよがりのものにならないように気を付けて行動することも大切である。そこで、もう一度「親切とは何か」ということについて考え、どのような考えをもって親切な行為をするべきかを考えさせる必要があると考える。

(3) 教材について

本教材は、主人公のユウコが幼なじみのハルカと同じクラスになり、委員会を決めるときの心の葛藤を描いた作品である。仲のよい友達と一緒に過ごすことは、心地よく安心感が得られる。普段の本学級の児童の様子からも、自分の意思より友達を優先する場面が見られるため、身近な内容である。ユウコの心の葛藤を考えさせることにより、相手の立場に立って考えたり、相手の置かれている状況を自分自身に置き換えて想像したりしながら、相手の立場に立った親切について考えさせることができる教材だと考える。

4 指導方針

○本時で扱う道徳的価値を想起し、問題意識をもつために

- ・導入では、親切についてよいイメージをもつ児童にゆさぶりをかけ、「よくない親切もあるのか」と投げかけることで問題意識をもたせ、自分との関わりで考えられるようにする。

○中心的な教材によって、本時で扱う道徳的価値の追求を行うために

- ・展開の最初に、登場人物の性格や置かれた状況を板書して把握させることで、教材への興味・関心を高め、意欲的に授業に取り組めるようにする。
- ・自他の感じたことや考え方を交流したり比較・検討したりすることで、相手の立場に立った親切とは何か、多面的・多角的に考えられるようにする。

○本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返るために

- ・親切な行為について自分の経験を振り返らせることで、相手の立場に立って考え、親切にすることの大切さと難しさを感じられるようにする。
- ・本時で学習したことを今後どのように生かしたいかを考えさせることで、よりよい生き方への思いや願いを深められるようにする。

5 本時の展開

(1) ねらい

ユウコがハルカと同じ委員会に入るかやめるかを悩んだ場面で、ユウコの心の葛藤を考えさせることを通して、相手の立場を考えて親切にしようとするための判断力を育てる。

(2) 準備

教師：ワークシート、場面絵、ホワイトボード

(3) 展開

学習活動と発問	時間	予想される児童の反応	指導上の留意点
<p>1 本時の学習の方向をつかむ。</p> <p>○親切とはどういうことですか。また、親切にされると、どのような気持ちになりますか。</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">親切とは何だろう。</p>	3分	<p>(親切とは)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・優しくする ・助ける ・教えてあげる (どんな気持ち) ・うれしい・感謝・ありがとう 	<p>●「親切はよい」ということをゆさぶり「よくない親切があるのか」ということに触れることで問題意識につなげられるようにする。</p>
<p>2 教材を読んで話し合う。</p> <p>○ハルカに「ユウちゃんといっしょになれてよかった」と言われたユウコは、どのような気持ちだったでしょう。</p> <p>◎本当にそれでいいのかなと、しばらく考え込んだとき、ユウコはどのようなことを考えていたでしょう。</p> <p>〈個人〉3分 〈グループ〉6分 〈全体〉6分</p> <p>【問い返し(◇)】</p> <p>◇「二人一緒に飼育委員をやめる」「ユウコだけやめる」二人にとってどちらが難しいでしょう。</p> <p>○相手のためになる親切とは何だと思いますか。</p>	<p>12分</p> <p>15分</p>	<p>・うれしい。</p> <p>・安心した。</p> <p>・よかった。</p> <p>・また面倒を見てあげられる。</p> <p>・ハルカの笑顔が見られた。</p> <p>・ハルカのこと心配だし、二人一緒の方が安心だな。</p> <p>・ハルカ一人で飼育委員会に行っても大丈夫なのかな。</p> <p>・二人一緒がいいけど、ハルカには、大好きな動物の飼育が似合っているな。</p> <p>・いつも私が手伝ってあげていたから、これからはハルカ一人でも頑張った方がいい。</p> <p>・ハルカは好きなことをやった方がいい。</p>	<p>●ユウコにもハルカが必要なことを確認することで、葛藤場面でのユウコの迷いに共感できるようにする。</p> <p>●普段から関わりの多い生活班のグループで話し合いを行い、話し合いやすい雰囲気の中で多様な感じ方や考え方に触れられるようにする。</p> <p>●グループの話し合いを通して新たな気付きをもった児童の考えを可視化し、比較・検討をすることで、道徳的価値の理解を深められるようにする。</p> <p>●ゆさぶる問い返しをしたり、他の児童にその意見に対する考えを聞いて広げたりしていくことで、多面的・多角的に考えられるようにする。</p>
<p>3 親切について、これまでの自分はどういうふうにかえていたかを振り返り、これからどのような気持ちが必要かを考えましょう。</p>	10分	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の気持ちになって、思いやりや相手を信じる心を大切にしていきたい。 ・仲良しでも、簡単に同じものを選ばずによく考えたい。 	<p>●具体的な場面で、どのような判断をしたらよいかを考えさせる。</p>

(4) 評価の視点

○ユウコの行動を考えることで、相手の立場に立った親切について、多面的・多角的な見方へと発展しているか。

○ユウコの心の葛藤を考えることで、相手の立場に立った親切について、自分自身との関わりの中で深めているか。

指導例：主題名 相手のための親切 B-(7)親切、思いやり
 教材名 『やさしいユウちゃん』（日本文教出版）第5学年

ねらい：ユウコがハルカと同じ委員会に入るかやめるかを悩んだ場面で、ユウコの心の葛藤を考えさせることを通して、相手の立場を考えて親切にしようとするための判断力を育てる。

過程

主な学習活動（○発問 ◎中心発問 ◇問い返し）

指導のポイント

導入

1. 本時で扱う道徳的価値を想起し、問題意識をもつ。

○親切とはどういうことですか。また、親切にされるとどのような気持ちになりますか。

S：優しくすること。

S：困っている人を助けてあげること。

S：親切にされるとうれしい。恩返しがしたくなる。

◇友達が親切にしてくれたけれど困ったときはありましたか。

S：自分でできるのに、友達が代わりにやってしまったときは嫌だった。

T：自分は親切だと思っても、相手にとっては違うこともあるようですね。

親切とは何だろう。

問題意識

○親切についてよいイメージをもつ児童にゆさぶりをかけ、「よくない親切もあるのか」と投げかけることで、問題意識につなげられるようにする。

中心発問

2. 中心的な教材によって、本時で扱う道徳的価値の追求を行う。

○ハルカに「ユウちゃんといっしょになれてよかった」と言われたユウコは、どのような気持ちだったでしょう。

S：ハルカと一緒にいるから、私も安心だな。

S：またハルカの面倒をみてあげられる。

◎本当にそれでいいのかなど、しばらく考え込んだとき、ユウコはどのようなことを考えていたでしょう。



S：同じ委員会がいいけど、ハルカには大好きな動物の飼育が似合っているよ。

S：私がいなくてもいろいろできるように、一人でも頑張った方がいいよ。

S：ハルカには、本当にやりたいと思ったことをやらせてあげたい。

S：ハルカ一人で本当に大丈夫かな。

<グループで話し合う児童>

○「二人一緒に飼育委員をやめる」「ユウコだけやめる」二人にとってどちらが難しいでしょう。

S：ユウコだけやめる方。でも、ハルカが自分で飼育委員になりたいって初めて決めたから、応援してあげたい。

S：本当にハルカのためになるのは、一人でも飼育委員会に入ることだと思います。

○相手のためになる親切とは何だと思いますか。

S：相手のことを先まで考えてあげること。

S：時には厳しさも必要。

◇友達に厳しくされたら、耐えられない人もいるみたいだよ。

S：優しさと厳しさを使い分ければいい。

◇親切にするとき大切な気持ちには、どんなものがありますか。

S：思いやり。友情。信頼。



<グループの話し合いで深まった考えを書く児童>

協働や対話の場

○グループでの話し合いは、普段から関わりの多い生活班の児童同士で行うことにより、話しやすい雰囲気を作る。

○グループの話し合いを通して、自分の考えに新たな気付きを付け加える。そして、考えを書かせて可視化する。

展開

問い返し（◇）

○児童に対してゆさぶる問い返しを行い、全体での話し合いで多面的・多角的に考えられるようにする。



<全体での話し合い>

振り返り

○これからの生活に生かそうという思いがもてるように、自分の体験を想起して具体的に書くようにさせる。

○具体的な場面で、どのような判断をしたらよいかを考えさせる。

終末

3. 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。

○親切について、これまでの自分はどういうふう考えていたかを振り返り、これからどのような気持ちが必要かを考えましょう。

S：友達に親切にするとき、相手のためになるかよく考えて、これからも思いやりの心をもって助け合っていきたい。

S：仲良しなら、自分が我慢して何でも同じものを選ばなければならないと思っていた。でも、今度からは相手にとって何が本当の親切か、考えて行動できる人になりたいと思った。

評価の視点

○ユウコの行動を考えることで、相手のためになる親切について、多面的・多角的な見方へと発展しているか。

○ユウコの心の葛藤を考えることで、相手の立場に立った親切について、自分自身との関わりの中で深めているか。